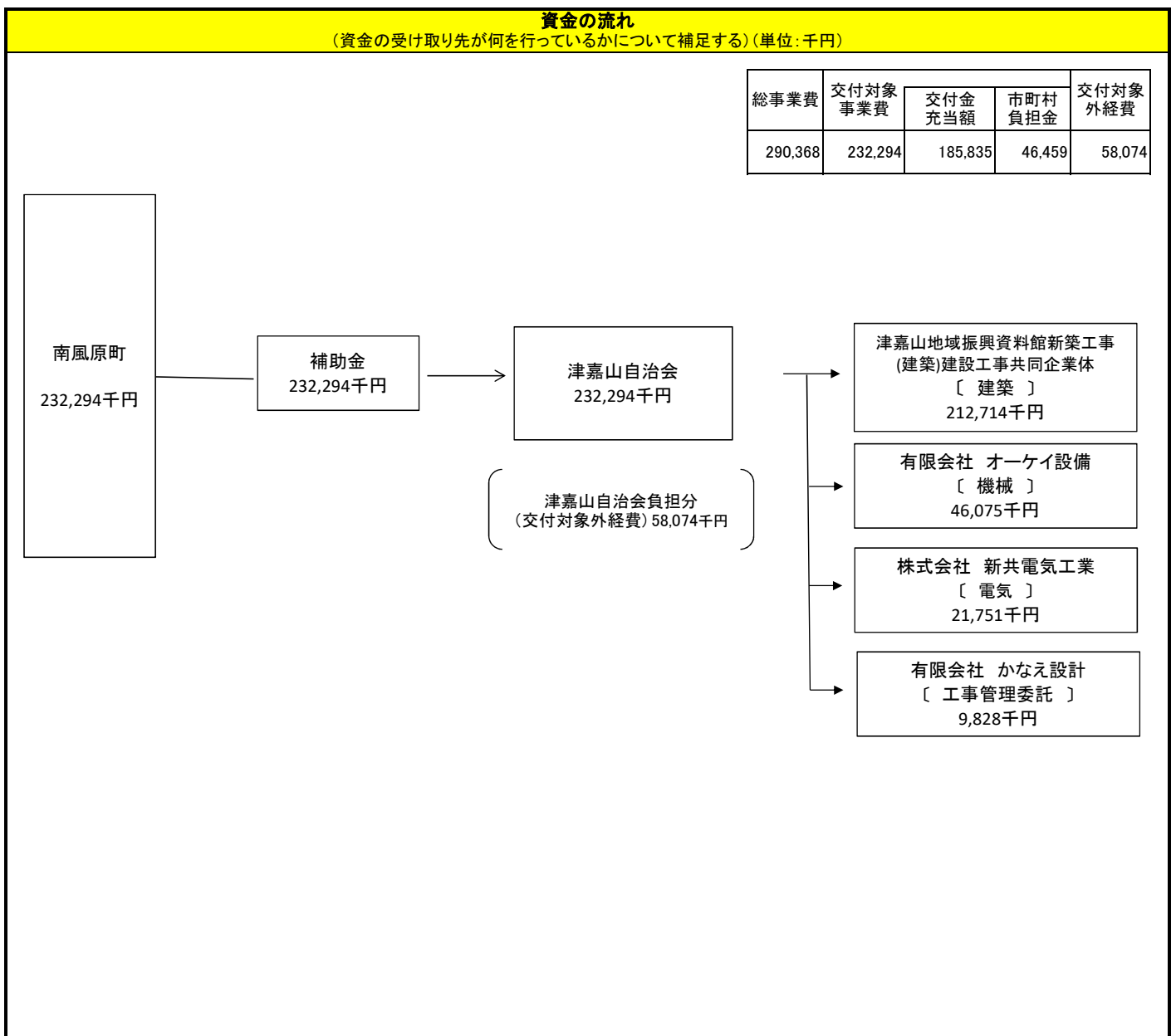


市町村名		南風原町					
平成29年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-⑤ 地域振興資料館整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-1-(5)-ア		
	担当部課名	総務部 総務課		事業実施(予定)年度	平成27~29年度	文化資源を活用したまちづくり	
		沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-3-(2)			
事業内容	本町の貴重な文化財である「津嘉山綱曳き」を保存、継承、発展させる事を目的として地域振興資料館の整備を行う自治会に対して補助金を交付する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R1年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度	H28年度(繰越)	H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	
		(a)当初予算額	6,129	—	240,000	—	
		(b)予算現額	183,277	—	232,295	—	
		(c)増減額(b-a)	177,148	—	▲7,705	—	
		(d)繰越額	—	95,256	—	22,923	
	A. 計(b+d)		183,277	95,256	232,295	22,923	
	B. 執行済額		87,048	94,792	209,371	22,923	
	うち交付金充当額		69,638	75,834	167,497	18,338	
	次年度繰越額		95,256	0	22,923	0	
	執行率(%) (B/A)		47.5%	99.5%	90.1%	100.0%	
予算の状況の説明		アスベスト解体除去に計画より多くの期間を要したため22,923千円を30年度に繰り越した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	・津嘉山資料館建築に対する支援	目標	( 支援 )	( 支援 )	( )	( )	
		実績	支援	支援			
		目標	( )	( )	( )	( )	
実績							
達成状況説明	平成30年度に繰り越し、平成30年4月に津嘉山資料館建築工事が完了して、補助金を交付したことで建築に対する支援を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R1年度)
			目標	( )	( 完了 )	( )	( )
	実績		完了				
	【R1成果目標】 年間来館者数 津嘉山資料館2,100人	目標					( 2,100人 )
進捗状況説明	平成29年度から津嘉山資料館の建築工事に着手し、平成30年4月に建築工事が完了して、同年4月から供用開始している。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	津嘉山資料館の完成により、無形民俗文化財に指定されている「津嘉山綱曳き」の保存、後継者の育成、及び年間来館者数の目標達成に取り組む必要がある。	今後の施設利用において展示資料の充実及び周知活動を工夫し、年間来館者数の増加について検討していく必要がある。
今後の取り組み方針		
地域関係者会議等で展示資料を検討し、年間利用者数の増加に取り組む。また、地域の行事のみで伝統芸能を披露するのではなく、学校行事等で地域の児童生徒を巻き込んだ利活用を検討し、年間利用者数の増加のみではなく新たな後継者育成事業に取り組むことで、地域の文化振興と後継者育成に活用する。		



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○南風原町地域振興資料館整備事業補助金交付要綱に基づき支出していることから妥当と考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である自治会が総事業費の2割を負担しており負担割合は妥当であったと判断する。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断する。